

新潟県沿岸の津波の痕跡を調べました

柏崎刈羽原子力発電所では、様々な津波対策に取り組んでおりますが、地域の皆さまにより一層のご安心をいただけるよう、新潟県沿岸における過去の津波の堆積物調査を行い、現段階での結果がまとまりました。

目的と方法は？

- ◆ 歴史記録が少ない江戸時代以前から7000年前までの新潟県沿岸部での津波の痕跡を調査し、知見を拡充することを目的としています。
- ◆ 調査は、右の図の11地点でおこない、各地点で2箇所～10箇所の合計55箇所、それぞれ深さ約1m～7mまで掘削して試料を採取しました。
- ◆ 試料の採取は昨年11月から開始し、3月までに完了しました。また、試料の分析を平行して実施してまいりました。
- ◆ 今回の報告は、現段階での評価結果をお知らせするものです。

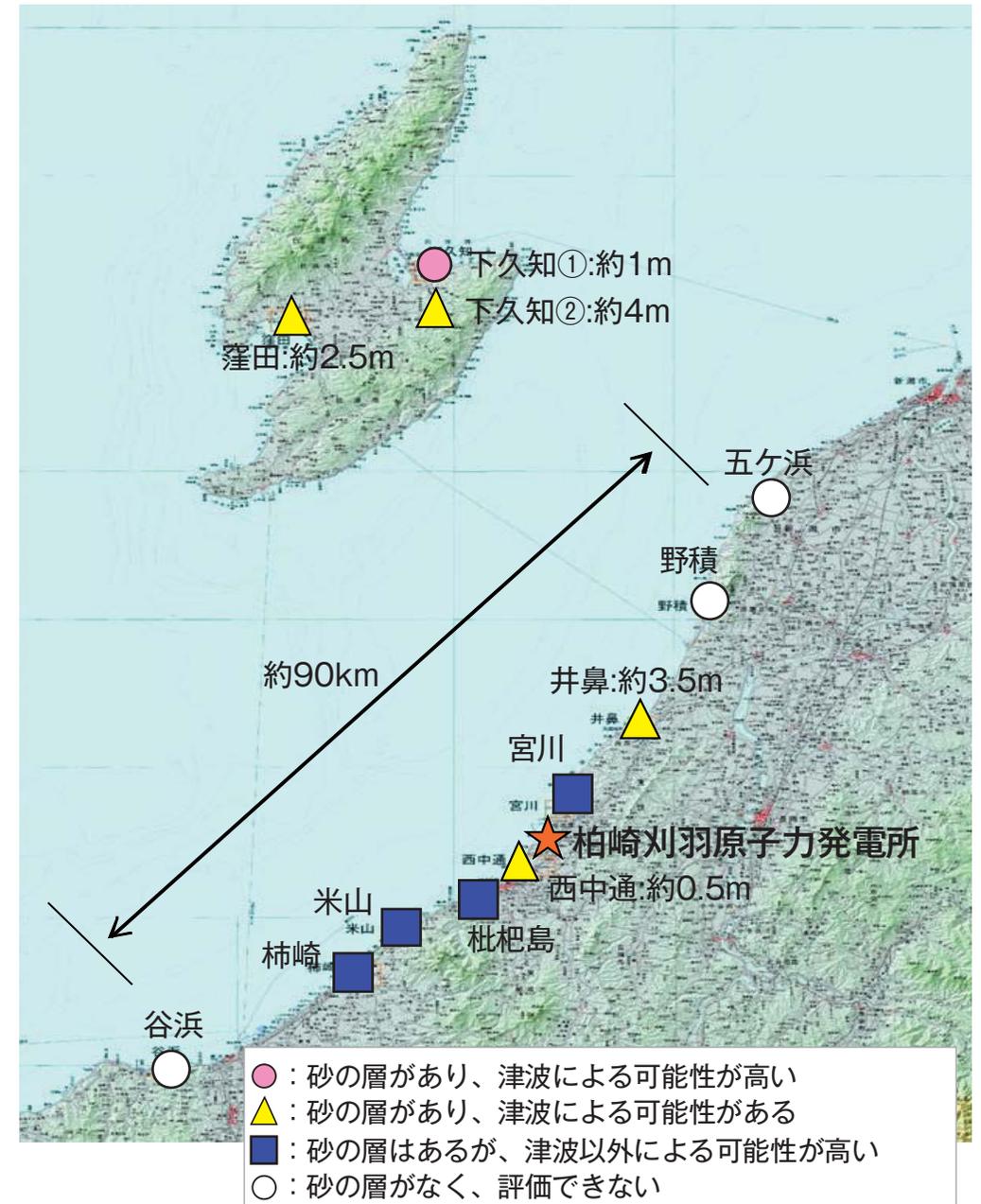
結果は？

- ◆ 佐渡島2地点、本州側6地点において、津波、高潮、河川の洪水、土石流など環境の急変があったことを示す「砂の層」が認められました。
- ◆ 佐渡島の1地点の砂の層は、層の形と海水に生息する珪藻が確認されていることから、「津波によるものである可能性が高い」と評価しました。(図の●の地点)
- ◆ 本州側の2地点、佐渡島の2地点の砂の層は、津波による可能性の他に高潮や河川の洪水などによる可能性もあることから、「津波による可能性がある」と評価しました。(図の▲の地点)
- ◆ これらは、発電所周辺で確認されている歴史津波の最大高さ(海拔約2～3m)と概ね変わらないものでした。

(海拔：m)

調査地点	今回の調査結果	天保山形沖地震 (1833年)	新潟地震 (1964年)	日本海中部地震 (1983年)	北海道南西沖地震 (1993年)
下久知	● 約1m ▲ 約4m	約4～5m (両津)	約2.4～3.1m (両津)	約1.1～1.3m (両津)	約0.8～1.2m (両津、住吉)
窪田	▲ 約2.5m	約1m (河原田)	約0.7m (河原田)	—	約0.7m～1.1m (河原田)
井鼻	▲ 約3.5m	約2～3m (出雲崎)	約1.3m (出雲崎)	約0.6m (出雲崎)	約1.1m (井鼻)
西中通	▲ 約0.5m	—	約1.1～1.5m (柏崎)	約0.9～1.3m (柏崎)	約1.9m (柏崎)

- ◆ 津波につきましては、現在、国や自治体などで行われている津波の想定についての検討を踏まえるとともに、津波堆積物についても知見の収集なども含め検討し、必要に応じて柏崎刈羽原子力発電所の津波評価に反映してまいります。



- : 砂の層があり、津波による可能性が高い
- ▲ : 砂の層があり、津波による可能性がある
- : 砂の層はあるが、津波以外による可能性が高い
- : 砂の層がなく、評価できない